

「みんなの種～Seeds for All～」の活動を見学しました。

山口市小郡地域交流センターで実施された“みんなねフェス”を、2025年8月24日（日）に見学しました。



主催者の「みんなの種～Seeds for All～」は、さまざまな生きづらさを抱えながら自分らしく学び活動している3名の高校生により、2024年12月に立ち上がった団体です。立ち上げのきっかけは、「多様な学びとは」をテーマに大人を対象とした勉強会に、メンバー3名がパネリストとして登壇し、それぞれの体験や常日頃思っていることなどを、発表・ディスカッションしたことに端を発しています。その直後、もっと大人と話したい！自分たちのことを知って欲しい、大人の考えもフラットな立場で聞きたい！等、3名の想いが一致し市民団体が立ち上がりました。彼らは、自分たちの気持ちを知ってもらう機会を持ち、大人・子ども関係なく、様々な価値観を知り、それぞれ認め合える視点を構築することで、すべての人たちが、自分らしく笑顔でのびのび生きていける社会環境を目指して活動を進めておられます。

今回見学させていただいた活動「みんなねフェス」は、メンバー3名と発達障害や不登校の診療にあたるとともに、地域における発達障害の啓発活動や家族支援を行っておられる児童精神科医の関正樹先生（岐阜県在住）によるパネルディスカッションで、29名が参加し開催されました。

まず初めに、活動の趣旨を含めての団体代表者のご挨拶、関先生のご紹介に続いて、司会者より会を運営する上での約束事「ここでお話される個人的なことの守秘」と「意見は尊重すること」が紹介されました。

いよいよパネルディスカッションが始まり、登壇者 3 名は、自分の好きなことや得意なこと、苦手なこと、どんなことで生きづらさを感じているかなど自身の個性も踏まえて、自己紹介しました。

続いて、登壇者 3 名による関先生への質問タイム。「大人は、よく夢や目標は何？って聞くけど、それってなくてはならないものなの？」「悩みやつらさを人に言えないときにはどうすればいい？」「モチベーションが無くなったとき、どのように回復すると良い？」「フリースペースをよく利用していて他の人たちと交わりたけどうまくいかない」など、日ごろ悩んでいることや、疑問に思っていること等を質問し、先生の回答を踏まえて対話しました。先生がお話くださる大人や定型発達の人たちの思考回路や動向は、言語化されると聴講者にとっても大変わかりやすく、普段からの人との接し方を改めて考える機会となりました。また、進路選択はできるかどうかより、「幸せでいられるか」や「心地よくいられるか」で選択すると良いとのお話は、これからの多様性を認め合う社会のあり方について示唆してくださるものでした。

次に、先生から「みんなねメンバーになって楽しいことは？」「フリースクールってどんなところ？」「信頼できる人って、どんな人？」「これだけは言われたくない言葉ってある？」など、登壇者の皆さんに質問があり対話が続けました。

最後に、関先生から「それぞれのしんどさを話してくれた。自分の中で解消しておしまいではなく、発信することが社会に良い影響を与えることに繋がる。このような場を作ってくれた 3 名のみんなは素晴らしい。大人も世の中を変えていくことにしっかり向き合い取り組んでいこう」とエールと参加者へメッセージが送られました。

2 時間にわたって、開催されたパネルディスカッション。先生からの問いに、登壇者 3 名は一つずつ丁寧に真摯に答え、素直に思っていることを発表し、当イベント開催の趣旨である「誰もが行きやすい社会へ・・・僕たちの声を届けたい！」という思いは、会場に来られた皆さんにしっかり届いていたようです。

趣味も好きなことも違う三者三様の个性的なメンバーが、お互いを認め信頼し合い、世の中に一石を投じる活動をすすめていることに、頼もしさを感じました。多くの学びと気づきをいただき、ありがとうございました。

(本郷)

